

養成医かわら版

NEWSLETTER



右)栗山貴裕先生と国際学会ENCORE SEOULにて

自己紹介

名 前： 北川達也（きたがわ たつや）
勤務先： 兵庫県立はりま姫路総合医療センター
診療科： 循環器内科
卒 後： 7年目
経 歴： 2019年3月 鳥取大学 卒業
2019年4月 公立豊岡病院 臨床研修医
2021年4月 赤穂市民病院 循環器科
2022年4月 公立豊岡病院 循環器内科
2024年4月 神戸大学医学部附属病院 循環器内科
2025年4月 現職

これまでのキャリアと、影響を受けた先輩指導医の存在

上記の経歴にあるように、私は県養成医でありながら循環器内科という専門診療科に配属されてきました。希望診療科に配属されたのはラッキーでしたが、それは地域のニーズと多くのタイミングが重なった結果であり、自分には大きなミッションが課せられていると感じていました。

私のキャリア形成において最も影響を受けているのは、豊岡病院の初期研修2年目のときに出会った先輩指導医の存在です（県養成医OBですが今や全国に名を馳せる循環器内科医として活躍されていて、今なお私にご指導いただいております）。その先生が豊岡病院に赴任されたことで、豊岡の循環器診療の質は大きく向上し、循環器救急や重症心不全管理、心臓カテーテル治療などの多岐にわたる分野で医療水準が高まっていくのを研修医ながら肌で感じていました。その先生の姿に強く憧れ、循環器内科の魅力、そして県養成医として循環器診療に従事することの責務を学びました。

その後、先生が豊岡を離れるタイミングで、入れ替わるように私が豊岡病院循環器内科に配属されました。もちろん、その大きな存在の穴を埋めることはできませんが、自分なりに「一つの医療圏を支える」という使命を胸に診療に取り組みました。若さと体力を武器に、多くの患者さんを引き受け、時間を惜しまず診療にあたることで地域に貢献しようと努めました。但馬地域において公立豊岡病院は“最後の砦”としての役割を担っています。かかりつけ医や他科から患者さんの紹介を受ける機会は多く、専門医は地域での診療方針にまで責任を持つ姿勢が求められます。若輩ながら多くの困難やプレッシャーを乗り越えたという自負があります。

その一方で、田舎で循環器診療に従事してきた私はガラパゴス的成長をしていて標準から逸脱していないかという不安も抱えていました。豊岡では人員不足ゆえに十分な指導体制が整うのは困難でした。そこで後期研修では、豊岡病院から患者紹介をする機会が多かった神戸大学医学部附属病院およびはりま姫路総合医療センターで研鑽を積むことにしました。実際にハイボリュームセンターで勤務をしてみると、豊岡での経験は決して見劣りするものではなく、むしろ田舎でも多くの経験を積むことができていたと確信に至りました。地域でも標準的な医療を提供できていたことを、改めて自信を持って振り返ることができました。

私自身が不安を感じていたように、地域医療には「指導医の不足」という課題が残っていると思います。だからこそ今後は、自身の診療による地域貢献に加えて、後進や仲間を育てるという視点を持ち、地域を盛り上げる役割も担っていきたいと考えています。これは、私が初期研修医の時に出会った先輩指導医から受け取った“バトン”であり、次に繋ぐべき使命だと感じています。現在の後期研修では、自身の診療能力を一層高めることに日々励んでおり、近い将来「診療」と「指導」の両輪で地域医療を支える存在となれるよう努力を続けています。

はりま姫路総合医療センター 循環器内科について

兵庫県立はりま姫路総合医療センター（通称：はり姫）は、兵庫県姫路市に位置する高度急性期医療を担う総合病院です。2022年5月、兵庫県立姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院の統合により開院し、西播磨地域最大規模の医療機関として地域医療の中核的な役割を果たしています。前身である兵庫県立姫路循環器病センターは、1981年（昭和56年）に日本で初めての循環器専門自治体病院として開設され、40年以上にわたり心臓血管病の診療に取り組んできました。この伝統と専門性は、統合後も脈々と受け継がれ、より高度な医療提供体制へと進化しています。



はり姫の循環器内科には、冠動脈インターベンション、構造的心疾患治療、重症心不全、不整脈、肺高血圧症といった循環器疾患の各領域において、それぞれ専門の医師が在籍しており、高度かつ専門性の高い医療が提供されています。さらに、私自身を含めた外部の医療機関から多くの専攻医が集まっており、若手医師の教育・指導にも力を入れた体制が整っています。日常診療のみならず、学術研究にも積極的に取り組んでおり、次世代を担う循環器専門医の育成にも力を注いでいます。

実際に勤務してみて感じるのは、豊富な症例数と手厚い指導体制の中で日々学びを深められているという実感です。高度な診療体制が整っており、「この病院であれば、常に患者さんに最適な治療を提供できる」という自信を持って診療に臨むことができます。この貴重な経験は、今後の派遣先や自身の診療活動に確実に活かされていくと感じています。

後輩へのメッセージ

私自身、これまでの研修・勤務の中で多くの素晴らしい指導医との出会いに恵まれ、医師として大きく成長することができました。その中で強く感じたのは、「発信することの大切さ」です。自分が何を目指し、今どのような立場にいるのか、何に力を入れていきたいのか——。それらを明確にし、言葉にして発信することで、自ずと周囲には応援してくれる人が集まり、思いがけないチャンスが巡ってくるかもしれません。今の自分に何ができるのか、これからどんな医師になりたいのか。そうしたビジョンを持ち続けることが、将来のキャリアを切り開く第一歩になります。そして、地域医療の現場においては、若い医師の声や挑戦が新たな活力となり、病院や地域を動かす力になると考えます。

皆さんがそれぞれの立場で自分らしい歩みを進め、医師としての可能性を広げて成長していかれることを心から願っています。

